

2020年度 保育所・保育士の自己評価

(株)愛媛CATV まつやま大手町保育所

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。この事を踏まえ、まつやま大手町保育所ではこれに基づき検討し、保育の質の向上を図る為、保育所及び保育士の自己評価を実施しました。

今後はこの結果を踏まえ、次年度の保育計画・保育内容等の改善に活かし、改善していく事で、保育所の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や 地域の皆様との信頼関係がより良く深まるよう努めてまいります。

2020年度、保育所及び職員の自己評価についてご報告いたします。総合評価は最後に記載しています。職員が1年間を振り返り、評価をする事で新たな課題を見つけ、園の運営や経営に役立てればと考えております。引き続き、来年度も職員一同、心を1つにして未来ある子ども達のために笑顔あふれる保育に努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

2020年度 まつやま大手町保育所の保育所自己評価

【評価の基準】

- A できている
- B ある程度できているが不十分・改善を要する点がある
- C ほとんどできていない、もしくはできていない

回答者
管理者
岡田 真由美

項目		評価内容	評価		
			A	B	C
に保 つ育 い目 て標	①	保育方針・保育目標は職員間で共通理解を図っている。	○		
	②	保育方針・保育目標が活かされるような保育内容を考えている。		○	
	③	目標は前年度の反省を活かしている。	○		
○評価の根拠●改善策					
<p>○保育所保育指針に基づき、全体的な計画・年間指導計画・月案・週案・日案を作成している。</p> <p>○前年度実施した保育内容を見返すと共に、その年齢ごとの子供の育ちを把握し、個々の子供たちに寄り添える保育の計画・実施に努めている。</p> <p>○各年齢の担当が保育目標や計画を立てているが、それぞれのつながりに不足を感じていた。しかし2020年度は日々の保育について保育士全体での共通理解を深めるため週1回の勉強会などをルーティン化し、実施した事で改善されつつある。勉強会を継続し、考えた内容と実践した事が乖離する事にならぬよう、より良い保育が提供できるようにしていきたい。</p>					
<p>【主任保育士より】</p> <p>2020年度は、保育の質の向上を目指し、園内研修に取り組んだ。この園内研修では、子ども達の育ちを園全体でどのように捉えて必要なサポートをしていくと共に、職員間の意識統一にも役立てていった。自身の保育はもちろんだが、個々の保育士の日頃の保育をしっかりと見て、今何に困っているのか、何が不足しているのかを見極め、それに添うような研修内容を実施していった。日々の忙しさの中で、それぞれが自身の保育を振り返る事は難しいが、この研修をコンスタントに行う事で、自身の保育を見つめ直す機会になったと感じる。また、子ども達の育ちについて一人の目で見えてしまうのではなく、子ども達にかかわる職員全員が、それぞれの意見を出し合う事で、子ども達を多面的に捉え、情報を共有し、かかわっていく事ができるきっかけになったと思う。今後も、園内研修の充実を図っていきたいと思う。</p>					
保 育 内 容 に つ い て	①	計画指導は乳幼児の実態に配慮して作成している。		○	
	②	保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	○		
	③	子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができ、見通しを持ちながら進めているか。		○	
	④	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	○		
	⑤	素材・用具を適切に活用しているか。	○		
	⑥	評価結果を基に保育の改善に努めている。		○	

○評価の根拠●改善策

○新型コロナウイルス感染拡大によって、園の特徴の1つである積極的なイベント活動や園外保育が十分にできなかったが、その代替案として職員間で今の状況下で子ども達に喜んでもらえるよう、何か新しい事をと常に考え、園全体で取り組む事ができた。
 ○小規模ならではの家庭的な落ち着いた雰囲気の中で、一人ひとりに気を配り、丁寧に関わるようにしている。
 ○子供たちの遊びの中から育つものを大切に、「遊び」に着目し必要な援助や環境の提供を行っている。
 ○目標や保育計画は立てられているものの、計画した保育のねらいや内容と、実際の保育実践との間に差異が見られる事があった為、勉強会等で意識を持って取り組んでもらえるようにしている。
 →引き続き、自身の保育についての意識を持ってもらう必要がある。また、子ども一人一人に丁寧に関わる事に重点を置く事で、子どもの持つ自主性や自ら物事に取り組む意欲の芽を詰んでいなかったか振り返る事が必要だと感じる。また、保育経験年数が浅い保育士のスキル向上や保育の振り返り後の確認・実践ができていく必要がある。

食育について	①	食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせ、食育計画を立て、実践している。	○		
	②	旬の食材や行事食を取り入れ、様々な食材に触れ、味わえるようにしている。	○		
	③	評価結果を元に食育の改善に努めている。	○		

○評価の根拠●改善策

○子ども達の目の前でおかずを給仕したり、調理したりして楽しい雰囲気の中で食事ができるよう積極的に食育イベントに取り組む事ができた。
 ○季節や献立に合わせて、様々な食育イベントを企画実施しており、子供たちの食への意欲につなげている。
 ○個々の子供たちの「食」について職員全体で理解し、その子にあった食事の提供を目的に給食担当者と保育士がしっかりと連携をとって取り組んでいる。

保育・行事について	①	1日の流れ(デイリープログラム等)は現行で良いか。	○		
	②	乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしている。		○	
	③	行事のねらいや実施回数などの内容を検討し、改善に努めている。	○		
	④	計画・実施・評価・改善の体制をとっている。	○		
	⑤	保護者の願いや意見を取り入れている。		○	

○評価の根拠●改善策

○新型コロナウイルス感染の影響で季節時の行事やイベント(月1回程度実施している公開保育も含む)は、回数が制限されたものとなったが、3密回避しながら活動できる内容を考え実施する事ができた。また、公開保育ができない分、保育所のブログを毎日更新する事で子ども達の日頃の様子を伝える事ができた。
 ○各年齢ごとに、子供たちの育ちを捉えながら無理のない活動ができるようにしている。
 ○月初に個々の保護者から「保護者の願い」を記載してもらい、保育所との相互理解のもと保育が実践できるように努めている。
 ●保育に関するPDCAサイクルの不足は勉強会を通して改善されつつあるが、保育所全体で話し合いで、次の課題を見つけて実践→改善の取り組めるサイクルはまだ不足していると感じる。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	
組織・運営	①	職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に携わっているか。		○	
	②	職員間の連携がとれ、報告・連絡・相談等ができ、協働できる体制になっている。	○		
	③	係や仕事の分担・割り当ては適切か。		○	
	④	職員の意見を聞いたり、話し合う場を定期的に持っているか。	○		
	⑤	打ち合わせ回数・時間・内容は適切か。	○		
	⑥	年齢別目標は、保育目標や乳幼児の実態に即して設定しているか。		○	
	⑦	意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	○		
	⑧	同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	○		

	⑨	評価・資料(記録)を集積しているか。	○		
○評価の根拠●改善策					
<p>○各担当年齢の今の状況や今後の保育についての見通しなどを職員会・週1回ペースの勉強会で話し合う事ができた。 →勉強会で話し合った内容やアドバイスを元に日々の保育の改善に取り組むべきだが、そこに不足や伸びしろを感じる。来年度は勉強会で行った内容がどのように日頃の保育に反映できているのか、自分自身の保育の振り返りに活用できているのか確認していきたい。</p> <p>○主任保育士を中心に、行事や勉強会、イベント等協力して効率よく段取り・調整できた。 →主任保育士がいなくても、各職員が受け身でなく、自身で考えて動けるように意識していく必要がある。</p> <p>○毎週月曜日にその週(1週間)の各年齢で何を活動するのかボードで可視化するようにしている。各保育士の動きがお互いに見えるようになり、自分自身の保育もより具体的に活動を見ていけるようになった。 →ボードに可視化する際に、具体的に何をするのか分かる内容であるか精査する必要がある。</p> <p>○各担当年齢児の今の状況や今後の保育についての見通しなどを職員会や勉強会で話し合う時間が増え、保育について振り返る時間が増えた。</p> <p>○各年齢での園外保育実施や保育士の研修時等では、保育士の配置人数を増やす等、柔軟かつ臨機応変に対応できる体制にある。</p> <p>●全職員がチームとして園全体の運用が円滑になるよう意識を持ってもらうよう、働きかけていくと共に、意見の出しやすい環境に努めていきたい。</p>					
保健・安全指導	①	危機管理意識を持ち、緊急時の対応できる体制・マニュアルの作成、保健対策を講じているか。	○		
	②	避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。		○	
	③	保育士・調理員が連携し、アレルギー児に対応する環境・体制にあるか。	○		
	④	健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○		
	⑤	乳幼児の安全のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○		
○評価の根拠●改善策					
<p>○感染症・アレルギー・事故防止及び発生時のマニュアル・交通安全指導・避難訓練の年間計画を作成。それを基に対策・訓練の実施。</p> <p>○アレルギー児の把握(2020年度は対象児なし)。食器の個別化徹底。除去食メニューを作成(松山市公立保育所メニュー)している。</p> <p>○年2回の健康診断(歯科検診は1回)と、毎月の身体測定を実施。</p> <p>●安全訓練計画(非常災害・生活安全・危機管理の3点)を立てる事はできたが実施までの流れの見直しが必要。</p>					
園内外研究・研修	①	研修・研究は保育目標の具体化につながるものであるか。	○		
	②	所内研修の計画・運営は適切か。	○		
	③	研究・研修の成果を日常保育に活かし、乳幼児の育ちに反映できているか。		○	
	④	各種研究会・研修会・講習会等への参加体制ができているか。	○		
	⑤	各種研修会・講習会等での内容を所内に報告・還元しているか。		○	
○評価の根拠●改善策					
<p>○園外研修ができなかった分、園内研修の充実化を図る事ができた。週1回ペースで継続的に実施。1ヶ月スケジュールで実施日を決めたので、パートの保育士も時間が合えば参加する事ができたのは良かった。</p> <p>○保育士のキャリアアップ研修をはじめ、研修に参加できるよう職員を配置している。</p> <p>○職員も積極的に研修・講習会に参加し、保育の質の向上及び自己研鑽に努めている。</p> <p>●新型コロナウイルス感染拡大の為、多くの研修が中止・延期となり、予定していた研修に参加する事ができなかった。</p> <p>●園内研修は、研修する事が目的になってはいけない。研修することで自分自身の保育の質の向上に活かすことができるかどうかである。今年度は園内研修で様々な意見を交換しそれを日頃の保育に反映させた部分もあったが、個々に見ていくと勉強会と日々の保育が結びつかず受け身であった部分もある。来年度の課題としてしっかりと見直していきたい。</p>					
園内情報	①	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○		
	②	公文書収受・発送・処理を適切に行っているか。	○		
	③	各帳簿は、適切な方法で作成・処理しているか。	○		

○評価の根拠●改善策

○子どもの情報等は、守秘義務とプライバシー保護の観点で職員会等で全員(参加できないパート保育士は個々に)に周知し、個人情報に関する書類等は鍵付の棚で保管する等の配慮をしている。

項目	評価内容	評価		
		A	B	C
施設・設備	① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○		
	② 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管されているか。	○		
	③ 掲示板・掲示場所を適切かつ効果的に活用しているか。	○		

○評価の根拠●改善策

○遊具や玩具の点検(チェックシートの作成)や消毒を行い、整理整頓を定期的実施している。
 ○感染症の流行の進捗状況や保護者へのお願い等の掲示は口頭以外での周知に役立っている。
 ○管理者が安全面のチェックを全面的にしている。今後は各職員が玩具や遊具等の安全点検を意識できるようにしていきたい。

園外交流・情報	① 積極的に地域の文化や生活に触れ、地域との関係が適切に保たれている。		○	
	② 乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。		○	
	③ 事業所職員の保育体験及び保育施設見学会を受け入れる時は、その目的や目的や意義を理解・確認しているか。	○		
	④ 保育所から各種便りを定期的に発信しているか。	○		
	⑤ 保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て資源に関する情報を提供しているか。	○		
	⑥ 医療機関・児童相談所等の専門機関及び提携園について保護者にとって必要な情報を提供しているか。	○		

○評価の根拠●改善策

○2020年度のGW前には、新型コロナ感染拡大の為、家でも楽しく過ごせるアイデア集を保育所独自に作成し、保護者に配布する。
 ○事業所内保育所である利点を生かして、柔軟に保護者に園行事に参加を促すと共に、行事には事業所社員にも参加いただき、多くの人とのコミュニケーションが取れるようにしておく。
 ○事業所である愛媛CATVの社員研修の一環に保育所体験を行ったり、他企業からの保育所見学を受け入れている。
 ○2020年度はほぼ毎日の園生活をHPに公開し、より具体的に園での様子をみていただけるようにした。
 ○松山市・保育幼稚園課からの周知事項や園だより等の各種たよりを定期的に保育所側から発信している。
 ○保護者からの要望があれば、関係機関と連絡し、情報を提供する事ができる。
 ●新型コロナ感染拡大の為、事業所だけでなく、近隣の商店街や児童館、公共機関及び施設を積極的な交流、利用する事ができなかった。感染が落ち着いたら、地域との交流を積極的に持てるよう企画を考えていきたいと思う。

評外評価部	① 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	○		
	② 苦情解決の体制づくりはできているか。	○		

○評価の根拠●改善策

○保護者アンケートを実施し、改善の努力をしている。
 ※当園では第三者評価は導入していません。

2020年度 まつやま大手町保育所の保育士自己評価

【評価】

- A おおむね達成できている
 B 達成に向けて取り組んでいるが、まだ課題が残る
 C 成果が不十分である。

【回答者】

保育士7名

項目	業務内容	評価内容		
		A	B	C
保育について	① 園の保育方針を理解して実践しようと努めている。	5	2	
	② 子どもの姿を的確に捉え、保育に必要な記録資料などの作成と活用を効果的に行っているか。 ※事務作業のない保育士は、作成された資料を確認・共有し、フォローができていますか。	1	6	
	② 子どもの成長発達について理解と認識を持ち、個々に応じた適切な対応ができていますか。	3	4	
	④ 計画立案に基づいた保育、クラス運営をしているか。 ※計画立案していない保育士は、担任保育士や全体を見てフォローができるよう意識しているか。	3	4	
	⑤ 日々の反省を活かした計画立案や保育実践がなされているか。 ※上記該当しない保育士は、計画立案した保育士と情報共有を図り、フォローができていますか。	3	4	
	⑥ 子ども一人ひとりの目標と課題を明確にし、見通しを持って関わっているか。	3	4	
	⑦ 子どもの発達を促すための環境作りやかかわりを心がけているか。	6	1	
	⑧ 子どもの姿を見ながら、臨機応変・計画的に環境作りや援助を行っているか。	4	3	
	⑨ 玩具や遊具の安全確認・消毒及び掃除・整理整頓に努めているか。	5	2	
	⑩ 子ども達の手本となるような言葉づかいや立ち居振る舞いを心がけているか。	3	4	
安全管理	① 保育中の子どもへの配慮(かみつき・危険な行動等)はできていますか。	7	0	
	② 園内外保育における人数確認及び安全確認ができていますか。	7	0	
	③ 園児の状態を指針・問診できていますか。(表情・怪我・体調等)	6	1	
	④ 遊具・備品等の安全確認	4	3	
接遇・保護者対応	① 好感の持てる態度で保護者や見学者・来客等に明るく丁寧な対応ができていますか。	6	1	
	② 保護者等の話をよく聞くなど、コミュニケーションをとり、安心して相談できる関係作りに努力しているか。	6	1	
	③ 保護者に対し、子どもの様子を分かりやすく伝えているか。	5	2	
	④ 必要な情報を収集し、自分の実践に活かしているか。	2	5	
職務	① 上司や先輩の指導・助言を受け入れ、実践しているか。	7	0	
	② 組織の規則や手続き、職場のルールを守って職務に取り組んでいるか。	7	0	
	③ 服装や身だしなみを整え、丁寧に礼儀正しい対応をしているか。	6	1	
	④ 職員間の必要な連絡・連携・報告はとれているか。	3	4	
	⑤ 与えられた仕事(日常・行事・雑用等)はきちんとできているか(正確さ・提出期限)。	4	3	
	⑥ 組織の一員である事を自覚し、周りの仕事にも自主的に協力しているか。	6	1	
	⑦ 自己の体調を管理し、他の職員に迷惑がかからないよう努めているか。	6	1	
	⑧ 職務上、知り得た情報の守秘義務の遵守し、子どもの人権に留意しているか。	7	0	
その他	① 問題意識を持ち、専門書を読んだり情報を収集したりして、自己の保育力の向上に努めているか。	4	3	
	② 積極的に研修や講習に参加する等、保育について何らかの自己啓発(自己研鑽)に取り組んでいるか。	3	4	
	③ 新しい仕事や困難な仕事にも、失敗を恐れず、前向きに取り組んでいるか。	5	2	

総評(保育士コメント抜粋)

- ・自身の保育では、子ども達の姿をしっかりと捉え、その時々で必要な援助ができるよう努めた。子ども達それぞれが持つ個性を大切にしながら、様々な体験を提供し、その体験の中から子ども達自身が発見したり想像を広げたり考えたり、人との触れ合いを楽しんだりできるようにしていった。1年を通して、子ども達の成長した姿見れたと感じる。これからも、日々の保育と真摯に向き合っていきたいと思う。
- ・今年度は週1回の勉強会に参加し、各年齢児の日々の活動や個々の成長を細かく話し合う事で共有認識を持って取り組む事ができた。今後もひとりひとりのねらいに対して現状を正確に捉えて、どのようにアプローチするのかPDCAサイクルを意識しながら取り組んでいきたい。
- ・2020年度は、前年度と比べて保育に携わる割合が増え、同じ活動であっても、前回との差や成長を感じながら保育を行う事ができた。
- ・フォローの入り方として課題は多くあるが、毎週の勉強会で相談したり他の保育士の反省等からも学ぶ事が多くあった。こうしていきたいという思いがあっても、実践となると、思うようにいかなかった事もあるので、これからの課題として引き続き、意識していきながら保育に臨めたらと思う。
- ・頭で考えているものと、実際にやってみるとでは差があり、反省点も多くあったが、やってみたらこそその学びだったと思う。失敗しながらも、やってみたいと思った事にチャレンジしていきたい。苦手分野も経験を積み重ねながら力をつけていきたい。
- ・イベントの際、準備や相談等を計画的にやっていく事ができず、ギリギリになってしまった。当日までに子ども達の気持ちをどう持っていくかをしっかり考える事、するべき準備を怠ってしまった事を反省する。イベントに限らず、日々の活動の中で、子ども達の気持ちを持っていく為の導入をどのようにしていくと良いのか、色々と取り入れていく等、何事も事前の準備早めの取り組みをしっかりと考えて行動していけたらと思う。
- ・担当児の発達の違いが大きい為、活動をどう合わせていじゆかが難しく、つい出来ている子の方に活動を合わせてしまいがちになってしまっていた。ゲームをする時等は、個々のレベルや理解度に合わせて進めていく事を意識し、どの子も楽しんでやり方を工夫するようにした。しかし、ゲームがワンパターンにならない為の準備はもう少ししておくべきであったと感じた。
- ・次年度は、自分の持つクラスの担任として、しっかり全体での活動等、まわしていけるよう、計画的に取り組む事を目標に頑張りたい。
- ・園芸では野菜や草花栽培で安心・安全な環境作りを心がけた。子ども達が野菜の生育を楽しみにしたり、興味・関心が広がるよう考えていきたい。
- ・担当児の発達や成長の様子を見ながら、環境設定をしていく事ができた。年齢により発達や遊びの違いがあり、1対1での時間が多かった分、信頼関係を築いたり、子どもの今の姿を捉えたりする事はし易かったが、子どもにとって他者とのコミュニケーションという部分では、担任以外との関わりが薄くなってしまったので、個々だけでなく、集団の中での子どもの姿を見ていけるような関わりができれば良かった。
- ・勉強会を通して、これまでより保育について見直したり考えたりする事が増え、他の保育士の意見を、それが良い刺激となった。
- ・今年度は、行事の担当をする事もあったが、ある程度のスケジュールを決め、報告をしたり相談したりしてスムーズに取り組めた。
- ・行事やイベントの発案・企画が2歳児担任でもある主任が中心であったので、他の年齢の担任からも、こうしてみたいという意見を発信できたら良かった。
- ・全体を通して、決定事項や指示された事をしたりする事はできているが、時と場合に応じて、他の保育士のフォローをする事ができていなかったもので、その部分に関しても、もう少し意識をして動けたら良かったと思う。
- ・概ね達成できていると思う。園児に対しても丁寧な言葉がけや楽しい雰囲気作りを心がけている。保育園での勉強会の参加や絵本の読み聞かせの勉強等、自己研鑽に努めている。
- ・保育所全体へ与える影響を考え行動する事を心がけた。
- ・急なシフト調整等にも積極的に対応した。
- ・日々、必ず振り返る時間を設け、改善点があらば、次回に活かす事を繰り返し行った。主任中心に先輩保育士等にも積極的に相談し、より良い保育の向上に努めた。

【総合評価】

1. 園全体の評価

開園4年目にあたる今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染・拡大の影響で、園外保育や公開保育が制限される中で、より良い保育が提供できるようにするにはどうしていけば良いのか、職員全体でしっかり保育に向き合い、考え取り組む年となりました。また、昨年からの課題であった職員の保育の質の向上や職員の意識統一の為に、主任主体での園内研修を積極的に取り入れました。その研修が週1回ペースで継続して実施する事ができ、職員の中でも園内研修時における保育の振り返りや今後の各年齢クラスでの取り組みやイベント企画等、しっかり話し合いができるようになった事は非常に良かったと思います。毎年、同じ行事やイベント等でマンネリにならないように、また、園外活動ができなくても楽しく過ごせるようにしました。2020年度の新たな取り組みとして、屋外遊技場でペットボトルや長い竹を使って川を作ったり、キャンプごっこが楽しめるよう、本物のテントや飯盒炊飯やレング、薪を用意したりしました。他にも新たな試みとして、お月見会、そうめん流し、ピニャータ風のハロウィンイベント、河原で焼き芋、新たな公園散歩の新規開拓も行き、徒歩圏で遊びに行く範囲もさらに広がりました。

食育に関しても、手作りおやつをメインに、子どもと一緒に調理はできませんが、ホットプレートや網焼き器、トースター等の機材を使って目の前で調理・給仕をし、出来立てが食べられる機会を多く設けました。

屋外遊技場での野菜の栽培、収穫ができるよう簡易な畑や栽培用のビニールハウスを建て、1年を通して草花を使った遊びが楽しめるよう園芸にも力を入れました。

また、園外へ出られない分、自粛期間の間や園外保育のイベントを室内のイベントにと、代替案をいくつも考えていきました。

月1回開催している公開保育も、新型コロナウイルスの感染拡大の為、毎月の開催は中止となりましたが、三密にならないよう工夫(屋外遊技場での実施、保護者両親のみの参加で人数を制限、窓があり換気できる部屋での実施)をし、お月見会や運動会、発表会、秋の散策と4回は両親のみの参加で実施する事ができました。

公開保育で日頃の子どもの様子を見て頂く機会が減った分、毎日保育所のブログを更新し、子ども達が新型コロナウイルス感染で活動が制限されるという中でも、コロナの暗い気分を吹き飛ばすかのように、変わらず元気で楽しく笑顔で過ごしている様子をお伝えする事ができたと思います。

毎年実施している保護者アンケートでは、2020年度は、自粛ムードの中でも、まつやま大手町保育所を利用する子ども達が健やかに楽しく笑顔で過ごし、健やかに成長してってもらいたいという職員の熱い気持ちや保育が、利用している保護者の皆様にも理解していただいたからこそ、保育・運用に関しては高い評価をいただいたと思っています。特に毎日のブログ更新は、遠方にいる祖父母も楽しみにしているとの意見が多かったので、来年度も継続していきたいと思っています。

2. 来年度の課題

新年度4月は7名スタートとなります。当面は、主任保育士が保育リーダーとしてクラスを持たずに現場全体のフォローに注力できる体制にする事で、保育経験が浅い担任保育士も安心して保育ができ、園全体でのより良い保育の提供と質の高い保育スキルの育成に繋がると考えています。

週1回ペースで開催している園内研修も引き続き継続し、研修に参加する職員が同じ温度で意見を出し合い、自信を持って保育に取り組めるよう、常勤保育士だけでなく、パート保育士も含め、全職員が共通の意識を持って取り組む事ができるよう取り組んでいければと思います。

保育士の自己評価の項目をクラス担任・担任以外の保育士と項目を分けた事で、前年度に比べ、A評価が減り、B評価が多くなっています。この保育士の評価は、コメントを見てもえれば分かると思いますが、それだけ自身の保育や役割について1年間しっかり振り返りができているからこそだと思っています。この評価の割合がAの割合が多くなるべく、来年度も真摯に保育に取り組んでまいります。

3. 最後に

10名と小規模な保育所であるからこそ、家庭的できめ細やかな配慮とその時々に応じた臨機応変で柔軟な保育が提供できると自負しています。

今の現状に満足する事なく、引き続き、保護者の要望や希望を聞く機会を多く設け、保育理念にもある子ども達にとっては「豊かに生きる力」が育つような様々な経験ができる保育所、保護者の皆様にとっては「安心して預けられる保育所」となるようさらなる努力をしていきたいと思っています。

子ども達・保護者の皆様・職員・地域の方々の皆が笑顔になれるような保育所になるよう、これからも職員一同精進していきます。